

一名紫青出雜要訣和名乃之。

〔倭名類聚抄二十〕紫苑 本草云紫苑一名紫蒨七見反和名能之俗云之乎邇

〔箋注倭名類聚抄十〕按說文云苑茈菀出漢中房陵又云苑所以養禽獸也二字不同干祿字書亦云

菀苑上藥名下園苑蓋晉唐人多園苑字作苑故顏氏正之也而未見紫苑字作苑者千金翼方證類

本草亦作紫苑則此作苑爲是然本草和名新撰字鏡皆作苑蓋皇國古俗通用也陶弘景云生布地

花亦紫本有白色毛根甚柔細日華子曰形似重臺根作節紫色潤軟者佳圖經云三月內布地生苗

葉其葉三四相連五月六月內開黃紫白花結黑子李時珍曰其根色紫而柔宛故名略按羊蹄訓

之見下文紫苑葉似羊蹄在曠野中故名能之

〔今古和歌集十〕物名 玄をに

ふりはへていざふるさとの花みんとこしをにはほひぞうつろひにける

よみ人 玄らす

〔備字例附錄〕玄をに

玄をには紫苑なり苑は遠と同音にて漢音エン吳音ワン合口音舌内聲なる故にヲニとなれり

倭名抄に紫苑和名之乎邇また若狹國鄉名遠敷を乎爾不とあり

〔重修本草綱目啓蒙十一〕紫苑

ヲニノシコグサ萬葉集 ヒツジグサ古歌 ノシ和名 シヲニ同

今別ニコジヲナル故ニ此ヲ大ジヲント云苑ノ字一説ニ鬱ノ音トス本草備要ニ苑音鬱藥性

纂要ニ苑古鬱字本草彙言ニ苑ハ鬱也ト云リ

紫苑ハ人家ニ栽テ花ヲ賞ス一タビ栽レバ根旁引シテ甚繁殖ス又野生モ稀レニアリ葉ハ春舊

根ヨリ叢生ス木香葉ニ似テ小クシテ糙澀ナリ邊ニ鋸齒アリ深綠色一根數莖秋ニ至テ高サ七

八尺葉互生ス莖ノ末ニ多ク枝ヲ分チ單瓣ノ花ヲ開キ數百傘狀ヲナス形雞兒腸ノ花ノ如ク淡

紫苑ハ人家ニ栽テ花ヲ賞ス一タビ栽レバ根旁引シテ甚繁殖ス又野生モ稀レニアリ葉ハ春舊